

「堂々川;人も自然も生きている」

2022(令和4)年2月22日 堂々川ホタル同好会情報紙 2021年度第8号(創刊204号)

1. 2月20日の定例会は15人の参加で、福山城400年市民企画事業採択案件を実施し、猪が掘りあげた5番砂留下斜面などのリボン設置、ごみ拾い、モミジの植栽個人分の看板を掛けました。定例会以外にも川原の草刈りをしています。
2. 猪が毎晩のように出沒し、彼岸花植栽地周辺を掘り起こし、今年度で約2万球の球根を日干しにしてくれました……。その対策がリボンで囲う方法ですが、2年程でついに中に入り始め、カナブンの幼虫等や稲の仲間のズンバラの根を食べています。
3. 外来の害草、彼岸花の繁殖を阻むオオキンケイギク、タンポポモドキ等を抜きました
4. 今年は雪がよく降ります。5日、17日の積雪に続き、21日にも。が、景観抜群；
5. 福山市文化財課の女性が応援に来てくれ、井原放送さんも作業を収録されています。
6. 堂々川道沿いは猪に荒らされていますが猟友会の方が猪を追い詰めていました。
7. 堂々川のハコ罫にも毎日入って餌を食べています。あと少しで捕獲か？頑張ります。
8. 嬉しい報告「会の監査役渡辺文夫」さんが、福山市個人の部の環境賞受賞に内定
9. 目で見ると事例



モミジ看板場所確認



モミジオーナー



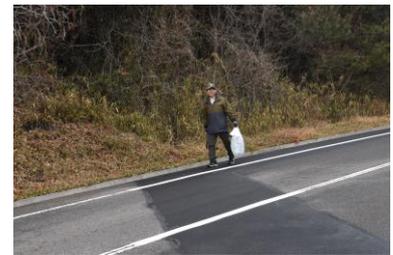
6番砂留整備



鳶ヶ迫砂留整備



害草の除去



ごみ拾い 相変わらず多い



鳶ヶ迫砂留の草刈り



猪を追い詰めた猟友会の人



5番砂留下方の荒らされた斜面

10. 次回定例会 集合時間場所 3月 27日(日) 8時30分～11時00分
作業内容 砂留整備・ゴミ拾い・イノシシの耕した跡の整備・草刈り

定例会はどなたでも参加できます。参加者は保険に入る為名簿にお名前を記入して！

11. 発行責任者 堂々川ホタル同好会 会長 土肥 徳之 携帯 090-2865-3486

登録有形文化財の砂留 堂々川の砂留群＝砂防堰堤（えんてい）

2018年に発刊された「神辺の砂留」（すでに絶版）に詳細は譲るとして、堂々川の砂留群は江戸時代築造された福山藩内の多くの砂留を代表したように、国の登録有形文化財に認定登録されています。ホタル同好会は2006年4月に設立、数カ月遅れの8月に文化財に登録されました。登録されたのは1番（日本最古の砂留と言われている）2番、3番、4番、5番、6番（堂々川最大）の本流6基と右岸の鳶ヶ迫（景観NO.1）、内廣の各砂留8基です。

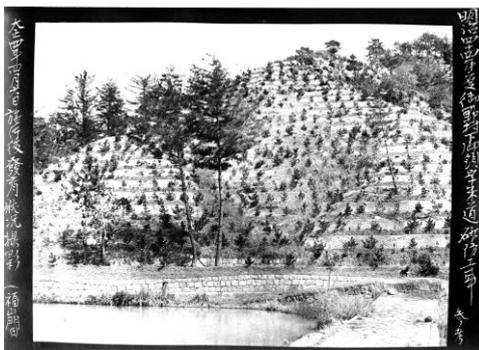
堂々川には16基の江戸時代築造の砂留がありますが、人により大原池内の4基は清水川水系と言われます。堂々川は1640年代福山3大大池が作られた頃、中条東山・大倉地域の大きな原を堰き止めた池が起点で下御領方面に流れ、岩盤や溪谷が多く百瀬川と呼ばれていました。が、1673年（寛文13年5月14日—延宝元年は9月から—）の梅雨と台風の大雨で堤防が決壊し、土石流が発生。当時の下流国分寺が流され63名の犠牲者が出ました。その後、福山藩主水野勝種は1694年国分寺を上流に移設して再建を図り、この頃から砂留を再建し始めたと考えられています。1700年の元禄検地では狸原（右岸4～5番あたり）に砂畑があったと記しています。つまりこの頃から砂留が造られていたと想像されます。

堂々川と呼ばれ始めたのは菅茶山師が砂留から流れ落ちる水を見て「堂々たる流れ」と書いたことから名前が付いたと言われている。

砂留は江戸の元禄時代に築造され始めていますが、堂々川では6番基礎部や5番砂留に古墳の石と思われるものも見受けられます。地域を砂や土石流から守っている砂防堰堤＝砂留は江戸時代に2回、明治時代に1回、その後崩落するたびに補修がされていますが、堂々川の場合は広島県が文化財であるから修理されていますが他の神辺や芦田地域は保護団体が修理しており、あるところは放置している地域もあります。WEBサイトのウィキペディアには任意団体の「堂々川ホタル同好会」が周辺美化を行っていますと記載しており、長年の活動成果を認めてくれています。又最近、堂々川河川敷は自然の生き物の宝庫とロコミで広がっています。堂々川観光地化おめでとう。多くの人の頑張りに感謝！

終

私たちは「ホタルと花と砂留と」の活動を通して堂々川を守るボランティアです。



大正4年の5番砂留 ↓



5番砂留及び下流は整備済



105年後2月17日の雪の5番砂留

四季を通じて観光地になりました。

堂々中流域は会員の皆様や小中学生園児、市の協力で・・・

春は	”桜とツツジ”
夏は	”ホタル 昨年福山一番の舞”
秋は	”彼岸花 広島県トップレベル”
晩秋は	”モミジ自慢”
冬は	”砂留の雪見”